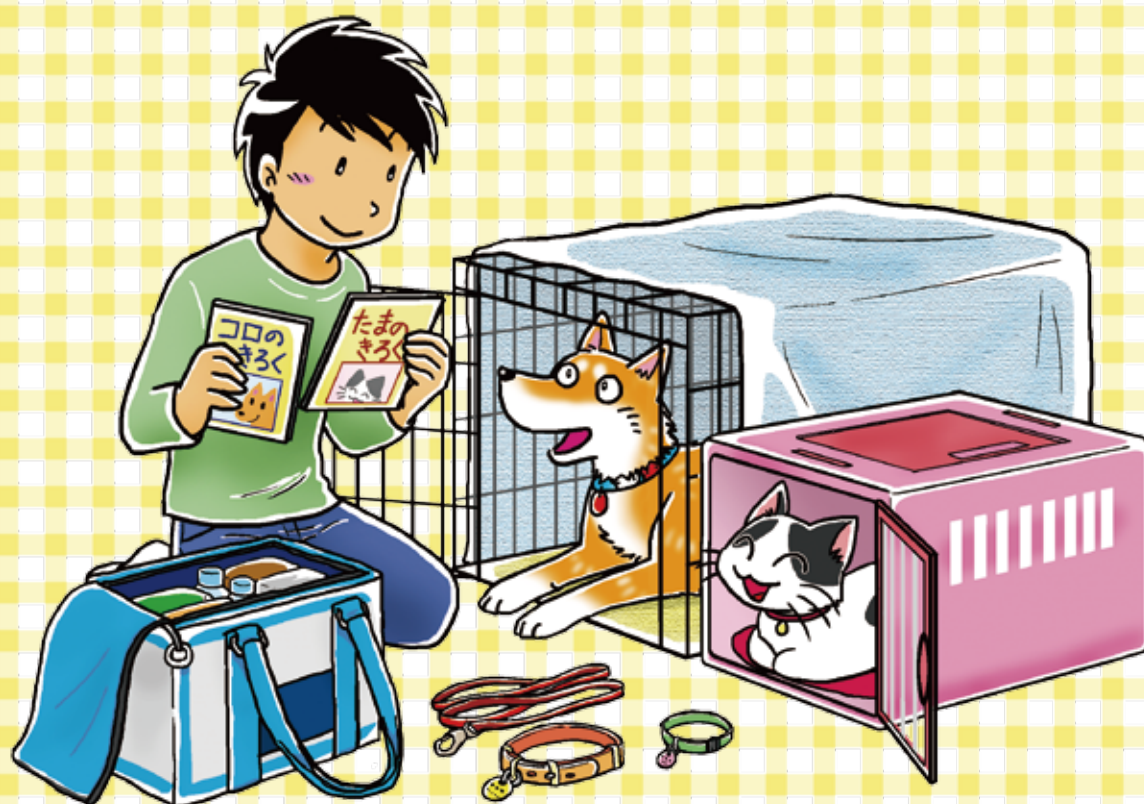


ペ
ット
も
守
ろ
う
!

防災対策

備えよう！いつもいっしょにいたいから 2



災害時にペットを守れるのは飼い主だけです。

避難が必要か判断することはもちろん、
人やほかの動物に友好的であることや
むやみに吠えない、ケージに入るなど
社会化や日頃からのしつけが重要です。

ペットの防災対策

災害は突然起こります。いざというとき、ペットを守れるのは飼い主だけです。まず飼い主が無事であること、そして避難する場合にはペットと一緒に避難場所に避難すること（同行避難）が基本です。ともに安全に避難でき、周りの人へ迷惑をかけず、安心して過ごすためには、日頃からの心構えと備えが大切です。



◇平成23年9月発行パンフレット「備えよう！いつもいっしょにいたいから」より◇

住まいの防災

住まいを災害に対して強くしておくことが、人とペットの安全にもつながります。

- 住まいの耐震強度の確認
- 家具の固定、転倒・落下防止
- 飼育ケージの固定、転倒防止（屋外飼育の場合は外塀やガラス窓の近くを避ける）
- ケージなどペットの避難場所（隠れ場所）の確保

健康管理としつけ

普段からワクチン接種など健康管理に注意し、動物の体を清潔に保ち、必要なしつけをしておきましょう。

- 予防接種や外部寄生虫の駆除
 - ブラッシングで抜け毛をとる
 - キャリーバッグやケージに慣らしておく
 - 「マテ（制止）」や「オイデ（呼び戻し）」や決められた場所での排泄などのしつけ
- ⇒詳しくは4・5・6ページ

家族の話し合いやご近所との連携

さまざまな場面を想定して、家族やご近所、飼い主仲間と防災について話し合っておきましょう。

- 家族間の連絡方法や集合場所
- ペットの避難方法や役割分担
- 留守中の対処方法と協力体制
- 緊急時のペットの預け先の確保

所有明示の徹底

ペットと離れ離れになったときのため、迷子札とマイクロチップなど、普段から身元を示すものを二重でつける対策をとりましょう。

- 鑑札、狂犬病予防接種注射済票（犬の場合）
 - 外から見える迷子札（鳥は足環など）
 - はずれる心配のない身元証明のマイクロチップ
- ⇒詳しくは3ページ

情報収集と避難訓練

住んでいる地域の防災計画を確認し、避難場所までの所要時間などを確かめておきましょう。

- 避難場所までの経路と所要時間
- 危険な場所と迂回路の確認
- ペット同行避難訓練への参加
- 動物が苦手な人への配慮

人と動物の安全確保と同行避難

災害が発生したら、まず自分の身の安全を確保し、落ち着いてから自分とペットの安全を守りましょう。

- 情報を集めて避難場所への避難が必要か判断
- 犬はリードや胴輪をつける（緩んでいないか確認）
- 猫や小型犬はケージやキャリーバッグに入れる
※キャリーバッグの扉はガムテープなどで固定する
※布などで包んで暗くして安心させるとよい

ペットのための備蓄品

ペットの災害時の備えは基本的に飼い主の責任です。

- 療法食、薬（必要なペットには必ず用意）
- 5日以上以上のフードと水、食器
- 予備の首輪、リード（伸びないもの）
- 飼い主の連絡先やペットの情報を記録したもの
- ペットシーツ、トイレ用品、洗濯ネット（猫の逃げだし防止など）、好きなおもちゃ、においのついたタオル、ブラシ、ガムテープ、新聞紙、ブランケット（ペットの体を包める大きさ）などもあると便利

避難所と仮設住宅

動物が嫌いな人、動物のアレルギーを持つ人、幼い子供など多様な人々や動物が集まるため、ストレスからペットも体調を崩しやすくなります。

- 飼い主は普段以上に周りの人へ配慮する（特にふん尿に関するトラブルが多い）
 - 世話やフード確保など飼い主の責任の下で行う
 - 飼い主同士が協力して助け合う
 - 支援物資や情報を共有する
 - 獣医師やボランティアによる支援を活用する
 - ペットの体調に気を配る
- ⇒詳しくは6・7ページ

飼い主の責任

一緒につれていけますか？



●頭数を考える

一緒に連れて避難できる頭数は限られています。よく考えて適正な頭数を飼いましょう。既に複数頭を飼育していて家族だけの避難が難しい場合は、ご近所や飼い主仲間などをお願いしておくことが重要です。

●猫は室内飼い

猫が外にいますと、災害が起きても呼び戻しができず、避難の時に連れていけません。猫を室内で飼うことは、普段から猫の健康と安全を守ると同時に、災害への重要な備えです。

●不妊去勢をする

不妊去勢をしておくことで、多くのペットと一緒に避難所などでも、繁殖のための争いやストレスを軽減することができます。また、飼い主とはぐれている間に繁殖して放浪する動物が増えれば大きな問題になります。マーキングなど問題行動防止のためにも不妊去勢手術をしておきましょう。

●大きさや健康状態

大型犬や病気のペット、自力で動けない高齢ペットを飼っている場合は、カートや補助具など移動手段を考えておきましょう。家族のほかにも、移動などを手伝ってくれる人を探しておくことで安心です。



身元を示すものをつけていますか？

突然の災害に驚いて逃げてしまい、ペットが迷子になることがあります。保護された際に飼い主のもとに戻れるよう、普段から、外から見える迷子札などをつけ、さらに、首輪などが取れてしまったときの確実な身元証明としてマイクロチップの装着といった二重の対策をとりましょう。

猫の場合

首輪と迷子札
マイクロチップ

※猫の首輪は引っ掛かり防止のため力が加わるとはずれるタイプのものでよいでしょう。



犬の場合

首輪と迷子札
鑑札と狂犬病予防注射済票
マイクロチップ

※犬の鑑札と狂犬病予防注射済票の装着は狂犬病予防法で飼い主に義務づけられています。



その他の小動物の場合

動物の種類に応じて、足環、耳標、マイクロチップなどがあります。



※マイクロチップは15桁の個体識別番号が記録されたチップのことで獣医師により装着が可能です。専用リーダーで読み取り、データベースに照会すると、飼い主情報を確認できます。登録を忘れずに！

災害時に備え、地域の獣医師会や団体、ボランティアなどと協力したペット同行避難訓練を実施する自治体が増えています。お住まいの地域で行われる避難訓練に積極的に参加しましょう。

茨城県では、災害発生時にペットと一緒に安全な避難場所へ避難することの重要性を周知し、避難場所におけるペットの受入体制を構築する目的で、ペット同行避難訓練を実施しています。



平成28年8月 高萩市立秋山小学校における同行避難訓練

静岡県では、ペット動物の災害対策を知ってもらうほか、ペットを飼育していない人にもペットの避難について理解を広げるために避難訓練を実施しています。



平成27年12月 長泉町立長泉小学校における同行避難訓練

ペット同行避難訓練

受付作業と安全な留訓練、獣医師による健康チェック、マイクロチップ読取り等

クレーントレーニング実演、パンフレット配布による啓発、ペット防災用具の展示等

災害時に役立つ社会化やしつけ

社会化とは人やほかの動物、様々な物や環境に慣らしていくことです。他人に友好的に接することができる、人もペットも避難生活のストレスが減り、預ける場合や迷子で保護された時でも扱いやすくなります。災害に備えた特別なしつけというものはありません。避難所では、鳴き声や吠え声、他人を怖がる、咬む、臭いや抜け毛などがトラブルの原因になります。むやみに吠えたりせず、知らない人や他の動物がいても落ちついていられたり、ケージやキャリーバッグに入るようにしておくことは、日常の生活でも重要です。

人や動物に慣らしておく

犬は子犬の頃から、なるべく多くの人や動物に接することで社会性をつけさせましょう。成長してからでも様々な物に慣らしていくことは可能です。怖がる場合は、積極的に触れ合うというより、平常心でいられることを目標にしましょう。苦手なことは無理強いしないで、おやつやおもちゃなど好きなものを使って、時間をかけて慣らしていきましょう。

猫も、来客に遊んでもらうなど無理のない範囲で、家族以外の人に慣らしておくといいでしょう。しつこくしないことがポイントです。なるべく首から上（頭部）をさわるようにしましょう。



様々な音や物に慣らしておく

いつもと違う音や物に囲まれることは、ペットにとっても大きなストレスです。日頃からいろいろな環境を無理なく体験させておくと、環境の変化によるストレスを軽減させることができます。

例：いつもと違う散歩コースを歩く、旅行やキャンプに行くなど

ケージに慣らしておく

ケージやキャリーバッグは動物病院に連れて行く時だけに使わず、日頃から扉を開けた状態で部屋に置き、ペットがくつろいだり眠ったりする「安心できる場所」として慣らしておくようにします。避難時の速やかな連れ出しもでき、ケージの中で過ごす時間が長くなる避難生活でもペットのストレス軽減につながります。

※ケージの上部が開くタイプであれば、ペットの出し入れも円滑になり、そのまま治療を行う際も便利です。

※スリング（斜め掛け抱っこバッグ）は移動時に便利ですが、災害時に使う際は転倒や逃げ出し防止などの注意が必要です。

- 1 おやつなどで、ケージの入口近くに誘導し、さらにケージの中から奥へ誘導する。



- 2 ケージの中でおやつなどを食べさせる。



- 3 おやつなどで誘導しながらケージの外に出す。また中に誘導して食べさせる。



- 4 扉を開けたまま、おやつやフードを入れた食器を置いて、ケージの中で食べさせる。



- 5 1～4を繰り返し行い、慣れてきたら、食べている間に扉を閉める。



- 6 食べ終わる前に扉を開け、閉じ込められたと思われないようにする。



※猫はもともと狭いところに入りたがる性質があるため、中でフードを食べさせるようにすれば、早くケージに慣れるでしょう。